取 付 説 明 書

30 系アルファード・ヴェルファイア

この度は当社ヒッチメンバー をお買上げ頂き誠にありがとうございます。
本品を安全に正しくご使用していただく為にこの取付説明書と別紙取扱説明書をよく読み確実に取付して下さい。

【構成部品】

No	部　品　名	数量
1	クロスメンバー	1
2	サイドプレート	2
3	ボールマウント	1
4	ヒッチボール	1
5	ボールマウントロックキー	1
6	6 芯配線 SET（6 芯線× 1・1 芯線× 1・結線タップ× 6）	1
7	7 極配線コネクター（車側）	1
8	ナベボルト・ナット（M 6）	各 1
9	六角ボルト（M12 × 1.25 × 40）	4
10	ステー付ナット	4
11	※六角ボルト（M12 × 1.75 × 40）	4
12	※スプリングワッシャー（※ 1）	4
13	※ワッシャー（※ 1）	4
14	※六角ナット	2

※ 1 ステンレスタイプのみ付属します。

【取付上の注意】

◆取付作業前に構成部品の不足、不良等を確認して下さい。

◆製品の製造、梱包等には万全を期しておりますが、万一部品の不足、不良等ございましたらお買上げ販売店までご連絡ください。

◆ステンレスヒッチメンバー（タイプⅠ / Ⅱ）には、※印のボルト・ナットは、ステンレス製が付属します。ステンレスブルト・ナットは機械工具を使用すると、焼き付く恐れがありますので、必ずラチェット、スパナ等を使用して、手でゆっくりと締付けて下さい。

◆ドリルで穴を開ける必要のある車種は、穴あけ加工位置や電気配線等に十分注意して施工して下さい。

◆各取付ボルトは、トルクレンチ等を使用して、下記締付けトルクで確実に締付けて下さい。

【タイトヒッチ取付ボルト標準締付けトルク】

※下記データは、強度区分 7 T ～ 8.8 T の標準締付けトルクです。

ボ ル ト 名 称	サ　イ　ズ	締付けトルク (N/m)
コネクタ取付ボルト	M6	5.2
ヒッチ取付ボルト	M8	25
	M10	50
	M12	90
	M14	122
ヒッチボールナット	M27	900

【主な必要工具】

■ドリル（12 ～ 12 mm）■ドリル（5 ～ 6 mm）
■ホールソー（35 ～ 40 mm）■トルクレンチ
■スパナ又はラチェット工具
■その他

【取付方法】

30 系アルファード・ヴェルファイアは、車両フレーム既存穴を利用して取付します。車両を加工する前に、サイドプレートをフレームに仮合わせして取付位置・使用する既存穴を確認して下さい。

①車両フレーム後方の既存穴を、12mm に穴径を拡大します。

②車両フレーム前方の既存穴から、車両前方へ 50 ～ 60 mmの位置に、ホールソーで穴あけする為の下穴を 5 mm～ 6 mmで開けます。

※左右方向はフレームの中心

③ 35 ～ 40mm のホールソーで、ステー付ナットをフレーム内部へ入れる為の穴を開けます。※②で開けた下穴にホールソーの中心を合わせた時に、外径が車両フレーム底面内に収まっている事を確認してから、施工して下さい。

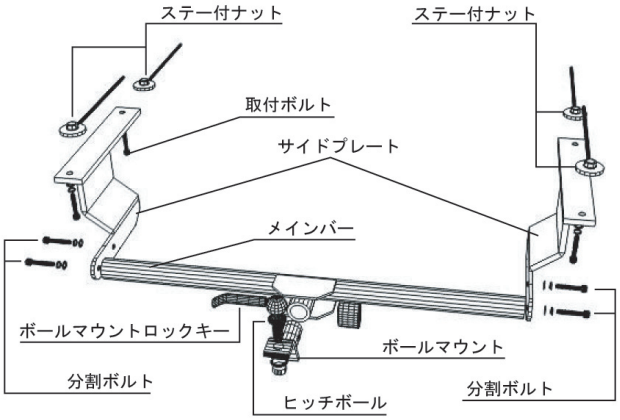
④ステー付ナットをフレーム内へ挿入し、車両後方の既存穴に合わせます。付属のボルトでサイドプレートを挟んで仮止めします。車両前方も同様にか仮止めします。

⑤メインバーを付属の分割ボルトで固定します。

⑥各ボルトを規定トルクで確実に締付けます。

⑦ボールマウントを装着してヒッチボールを確実に締付けて完了です。

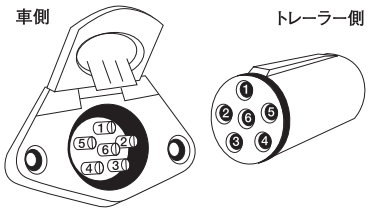
【展開図】



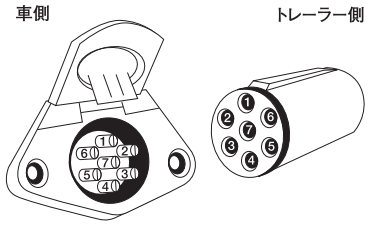
TIGHT JAPAN

TIGHT HITCH® 取扱説明書

電気配線コネクター配線図



●6極配線ケーブルの接続
1赤＝ブレーキ
2白＝左ウインカー
3黄＝右ウインカー
4青（茶）＝バック
5緑＝ポジション
6黒＝アース



●7極配線ケーブルの接続
1黒＝アース
2　＝未使用
3白＝左ウインカー
4赤＝ブレーキ
5黄＝右ウインカー
6緑＝ポジション
7青（茶）＝バック

配線注意事項

下記車種について電気配線をすることで車に障害がおこる場合があります。電気配線を施工する前に必ず販売店または自動車ディーラー、修理工場にご相談下さい。
〇ハイブリッドカー
〇LEDテールランプなどを有する車種
〇車の電装系が、電子制御されている車種

●電線が触れてショートしないように注意して下さい。
●ボディーとの摩擦、接触がある場合はテープ等で保護して下さい。
●電気配線コネクター側に差し込む配線先端は弱いので必ずハ　ンダ付け、もしくは専用コネクターを取付けしてから差し込んで締　め付けて下さい。
●配線終了後はトレーラーと連結して点灯確認して下さい。
●防水の為、差し込み側と配線側にグリスを差して下さい。

取扱注意事項

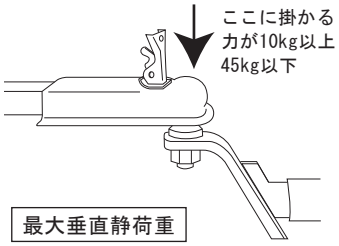
●このヒッチメンバーで750kg以上（車種によっては400kg以上）　のものや、自動車などを牽引しないで下さい。
●出発前の点検時に歪み、亀裂、ボルトの緩み、脱落等を発見し　た場合は直ちに使用を中止して下さい。
●トレーラー牽引中は、起伏の激しい道路や舗装されていない道　では必ず徐行して下さい。
●他の車を牽引したり、人が乗って不必要に揺らす等のトレーラー　牽引以外の負担がかかる行為はしないで下さい。
●強度低下につながりますので、分解、改造をしないで下さい。
●ヒッチメンバーを取り付けると地面とのクリアランスが少なくなりま　すので、勾配のついた出入口や車止め等に当てないように注　意して下さい。
●最大垂直静荷重（カプラー荷重）が10kg以上45kg以下の範囲　を超えないようにトレーラー積載物を調整して下さい。
●車側ポジションランプ、ハザード等電気が流れている状態で、配　線電気カプラーの抜き差しをしないで下さい。

ヒッチメンバーの許容範囲

ヒッチメンバーの許容範囲についてA、B、Cクラスと牽引能力を定めております。

A…車両総重量400kg以下のトレーラー
B…車両総重量500kg以下のトレーラー
C…車両総重量750kg以下のトレーラー
最大垂直静荷重（止まっている状態でヒッチボール部分に垂直に掛かる荷重）は10kg以上45kg以下

キャンピングトレーラーの場合、トレーラーの車検取得時に車両総重量750kgで登録されていても、実際の使用時には総重量を超えている場合が多く見られます。ガスボンベ、エアコン、その他のオプション部品と家具（テレビ、レンジ、食器）などが検査の後に積み込まれますので、かなりの重量になります。特に危険であるヒッチボール部分に掛かる最大垂直静荷重（カプラー荷重）も許容範囲を超えてしまいます。ボートトレーラーの場合でもボートの積載位置や、セッティングが悪いと同じことになります。



当社の推奨する最大垂直静荷重（止まっている状態）は10kg以上45kg以下です。
すなわちトレーラーのカプラー部分を人の力で持ち上げることが出来る位としています。仮に最大垂直静荷重が45kgとした場合、実際に車が走行すると45kg×2.5倍＝112.5kg位の力が車の最後部に掛かる計算になります。ヒッチメンバーの許容範囲はもちろんカプラーに掛かる垂直荷重の方が十分に注意が必要です。
最近の衝撃吸収ボディーや燃費向上を図った軽量化のため、特にモノコックボディー車は車側の取付部分が弱く、破損する恐れがあります。そう言ったことが起こらないよう、トレーラー車両総重量を必ず厳守していただき、キャンピングトレーラーは荷重が前方（カプラー部分）に掛かり過ぎないように室内の荷物を調整し、ボートトレーラーもボートの積載位置を調整するなどして下さい。どうしても許容範囲を超えて使用する場合はヒッチメンバー及び車体の強度を増す改造が必要です。詳しくは弊社又は販売店にお問い合わせ下さい。
ヒッチメンバーの牽引能力、ヒッチボール部分に掛かる最大垂直静荷重（カプラー荷重）の許容範囲を超えてのご使用は当社では一切責任を負いかねますのであらかじめご了承下さい。

走行前は必ず以下の点検を行って下さい。

●各溶接部の亀裂。
●各取付ボルトの緩み、亀裂、脱落。
●灯火類の点灯確認。
●ヒッチボールの緩み、偏磨耗、亀裂。
●ボールマウントの亀裂、歪み。
●ボールマウントキーの装着確認。